



ジャズってイイな！

難しくない♪ジャズの聴き方楽しみ方♪

岡崎市図書館交流プラザ（りぶら）

三浦健仁

【ジャズの演奏形態】

ジャズはもともとポピュラー音楽の一つ。楽しむことは難しくありません。独奏から大編成のビッグバンドまで、さまざまな演奏形態がありますが、ここではトランペットかサクソフ奏者が主役としてステージ正面（フロント）に立ち、ピアノ、ベース、ドラムがリズム隊としてバックを務めるカルテットの演奏を例に説明してみます。

軽い前奏のあと、まずはテーマ（ポップスでいうと歌詞の一番）を全員で合奏します。ここで曲の全体像が示されます。そのあと、テーマと同じコード進行でフロントの奏者がソロ演奏を始め、他のメンバーは引立て役に回ります。いかにカッコいいアドリブを聴かせるかがソロの見どころ。聴きどころで、盛り上がると長くなったりしますが、最後はテーマの終わりと同じコードに戻ります。

フロントのソロ演奏が終わると、次はリズム隊のソロが、ピアノ、ベース、ドラムの順に続きます。ベースソロのときは、音がよく

く聴こえるように、他のメンバーが演奏を休止することもあります。ドラムはメロディというより、盛り上げ役として比較的派手なリズムを展開します。ライブハウスで曲の合間に客席から拍手が送られることがあります。それはソロが終わるたびに演奏者をねぎらっている、いい演奏と思えば拍手喝采も大きくなります。こうして各パートのソロが終わると再びテーマに戻り、全員合奏して終わります。どうでしょう、意外と単純ではありませんか。

【他の音楽との違い】

ただし大事なポイントは、「即興演奏」であること。各演奏者はグルーブのリーダーからテーマだけを譜面などで事前に知らされるくらいで、その

譜面もコードが書いてあるだけだったりします。リーダーの方針やライブの趣旨にもよりますが、少々のポイント以外は細かいことを決めずに演奏していきます。ステージ上で次の曲を決めたり、目線で合図を送ってソロの順番を回したり、ノってくと演奏が長々と続いたり…この即興性がジャズと他の音楽との決定的な違いです。二度と同じ演奏はない、一期一会の音楽なのです。

【アクセントは？】

もうひとつのポイントは、4拍子のうち、2拍目と4拍目にアクセントをつけることです。ここで手拍子を入れると、いわゆるノリがよくなります。私たちは日常、1拍目と3拍目にアクセントをつけるのに慣れていますが、そこに手拍子を入れると、どんな格好いい演奏もジャズっぽくなくなってしまうのでご注意ください！（笑）

ともあれ、ジャズの醍醐味はなんととってもライブに尽きます。2月22日の「JAZZ 長久手」ぜひお越しくださいね！

「ドクタージャズ」と内田修さん(1929～2016)をご存知でしょうか？

岡崎市出身の内田さんは、渡辺貞夫さんをはじめ、日本を代表するジャズ・ミュージシャンを長年にわたり支援してきた外科医です。日本のジャズを育てたと言っても過言ではありません。晩年を長久手市で過ごされた内田さんは、岡崎市にご自身のジャズ資料を寄贈されており、その一端は岡崎市図書館交流プラザ（りぶら）で見ることができます。

2月2日文化の家イベント、レクチャー「さあ、ジャズを聴こう！」では内田修ジャズコレクションから、国内でも貴重な数々のレコード音源が解説とともに体験できます。お楽しみに！

